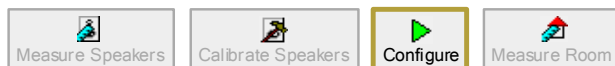


# DEQX設定術-機器の設定



## ■ Configuration (機器構成/接続設定)

コンフィギュレーション

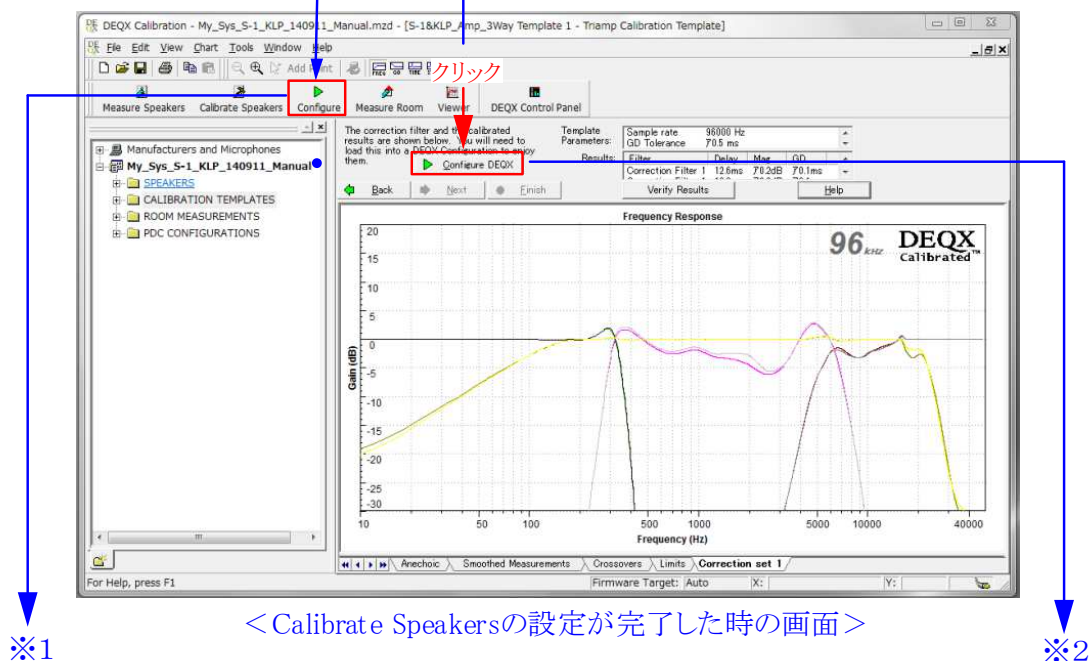
- ・私達はスピーカーを測定し、その結果から補正データを作り出しました
- ・そのデータをどのように活用するかを設定する作業がConfigurationです
- ・4個の基本設定用プロファイル (Profile) にそれぞれの役割を与えます (※)
- ・4ステップ ( → → → ) の3番目で、これが完了すると音が出ます

(※1) 音を出すには最低でも1個のプロファイルを設定する必要があります



[図1] Configuration設定時の接続図

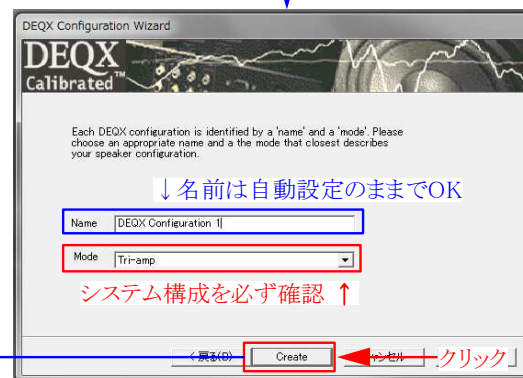
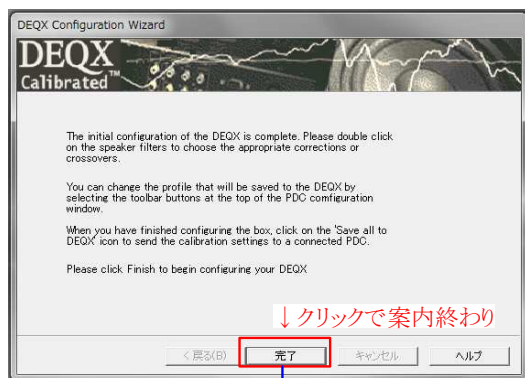
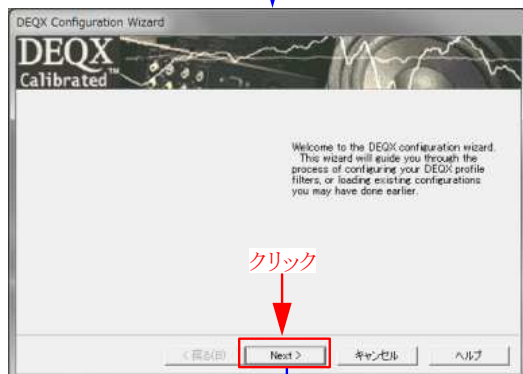
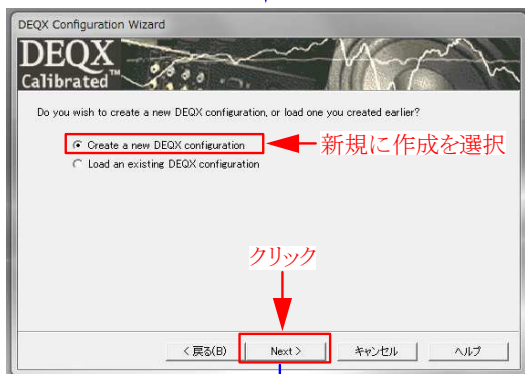
- ConfigurationはパソコンからDEQXに設定情報を送ることで完成します
- Configurationの設定はパソコンのCalibrationソフトで行います
- ここで、調整マニュアル[E-03(最小限の設定)]をもう一度ご覧下さい
- E-03にスピーカーの補正データを加えて正式な設定データを作ります
- 前章の[G(SP較正)]に続いてConfiguration設定に入る場合と、改めてConfiguration設定メニュー( )から入る場合があります。





※1

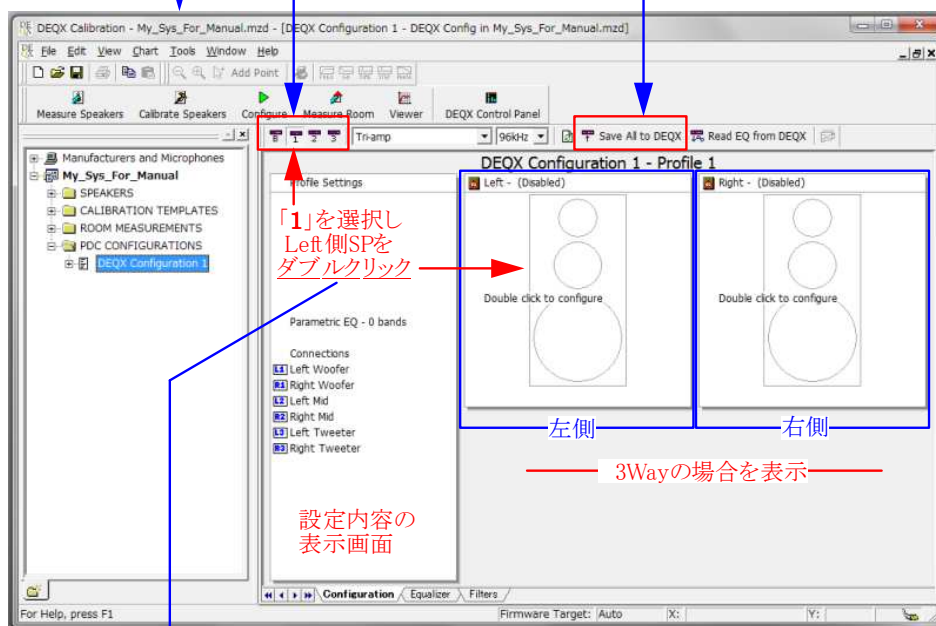
※2



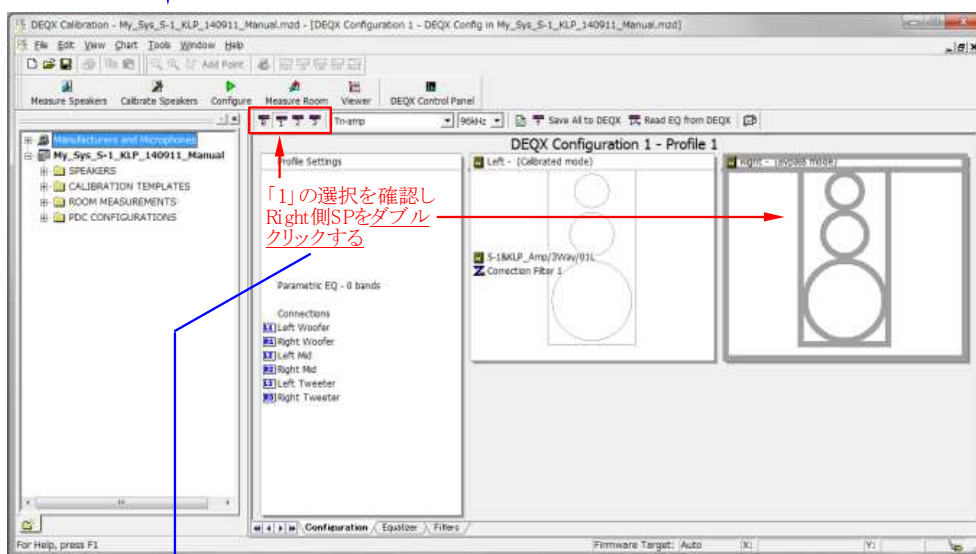
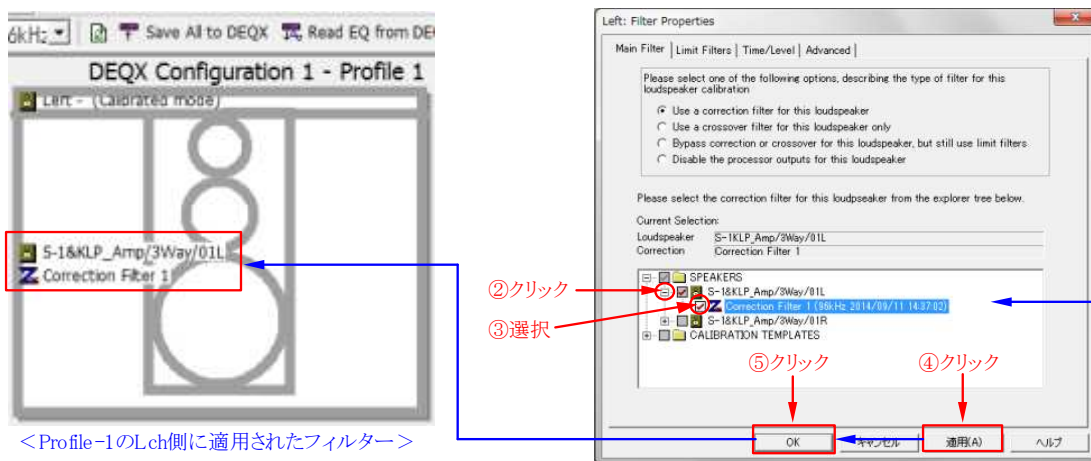
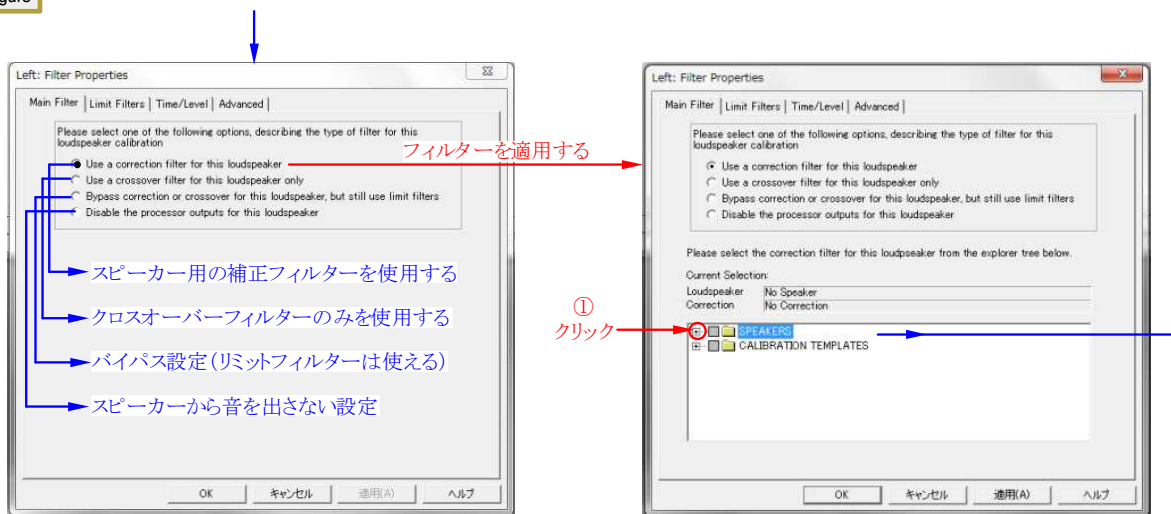
設定するProfileを選ぶ

「B」「1」「2」「3」はリモコンの  
「O」「1」「2」「3」に相当します

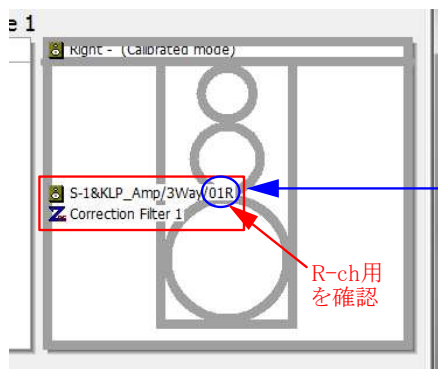
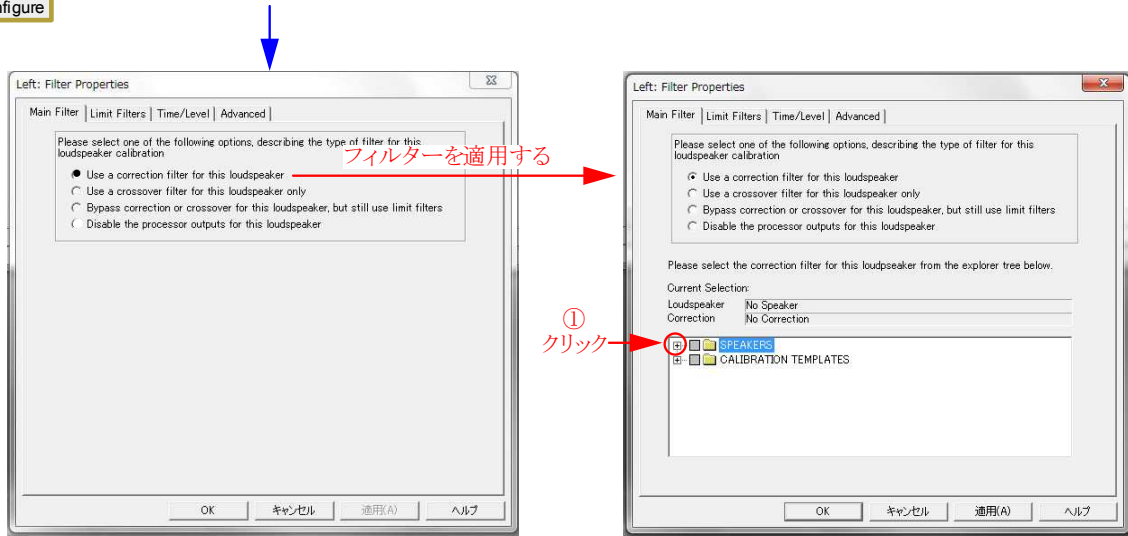
完成した設定データを  
DEQX本体に送るボタン



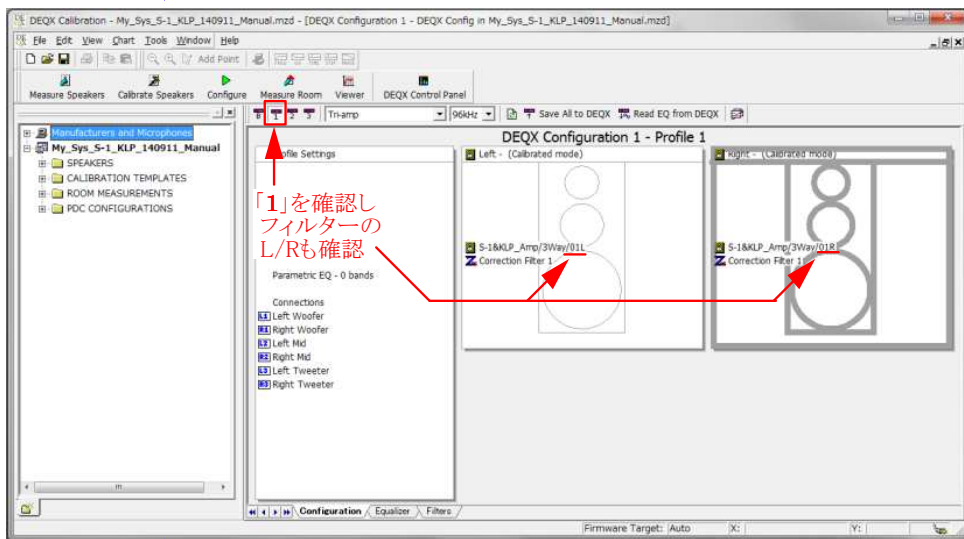
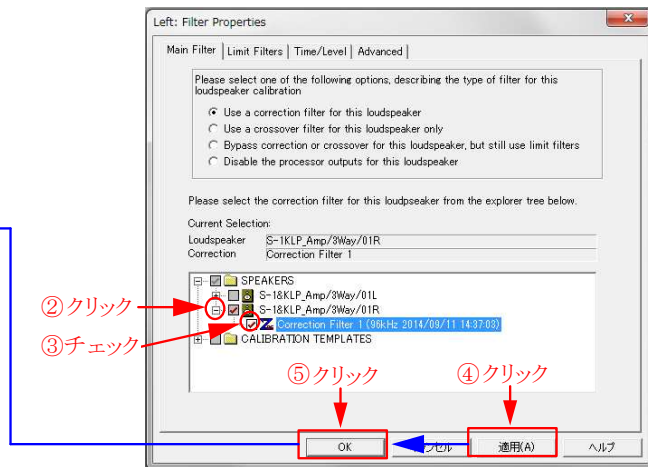
< Configuration設定のメイン画面 >



L側と同様に、R側にも補正フィルターを適用します

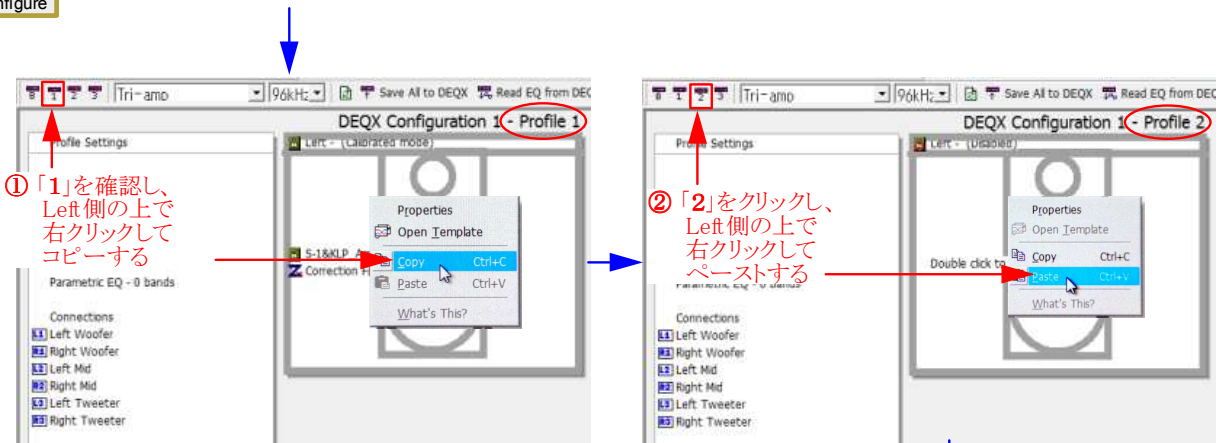
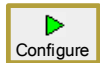


<適用された補正フィルター>

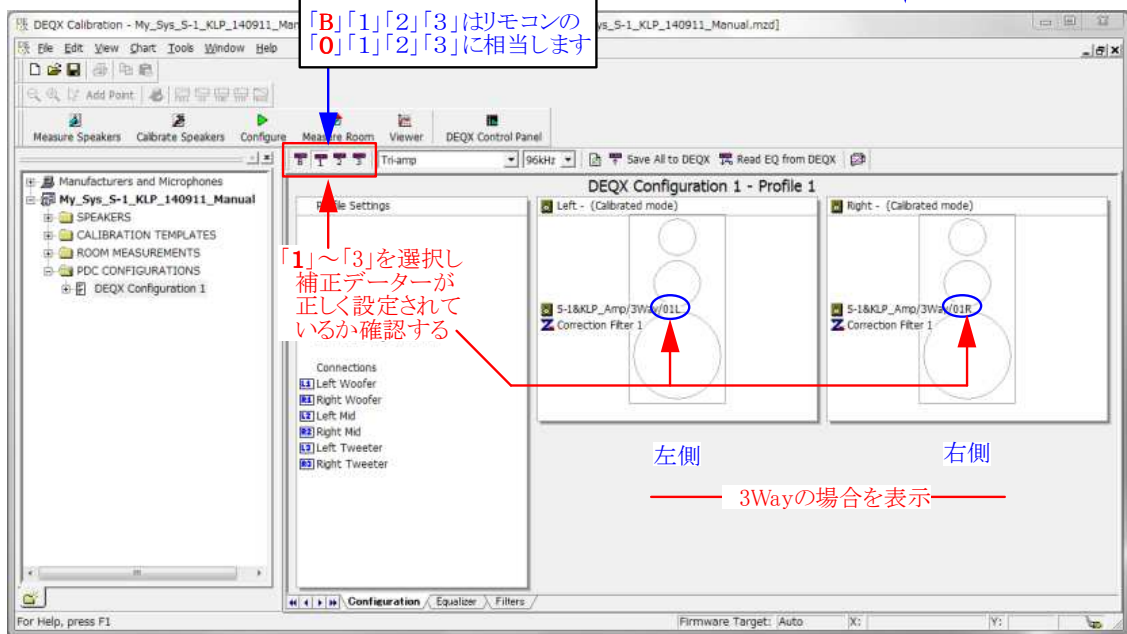
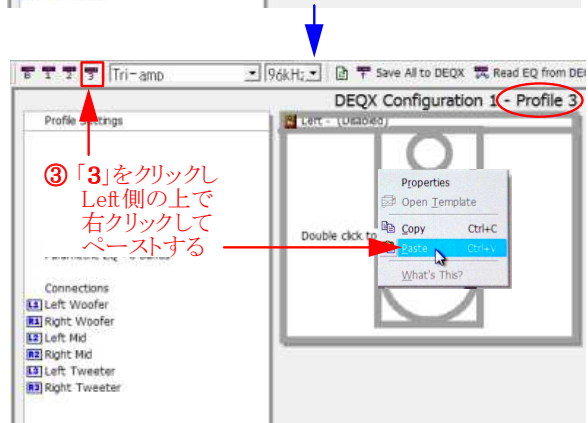


Profile-1に設定したデータ(L/R)を他のProfileにも適用します



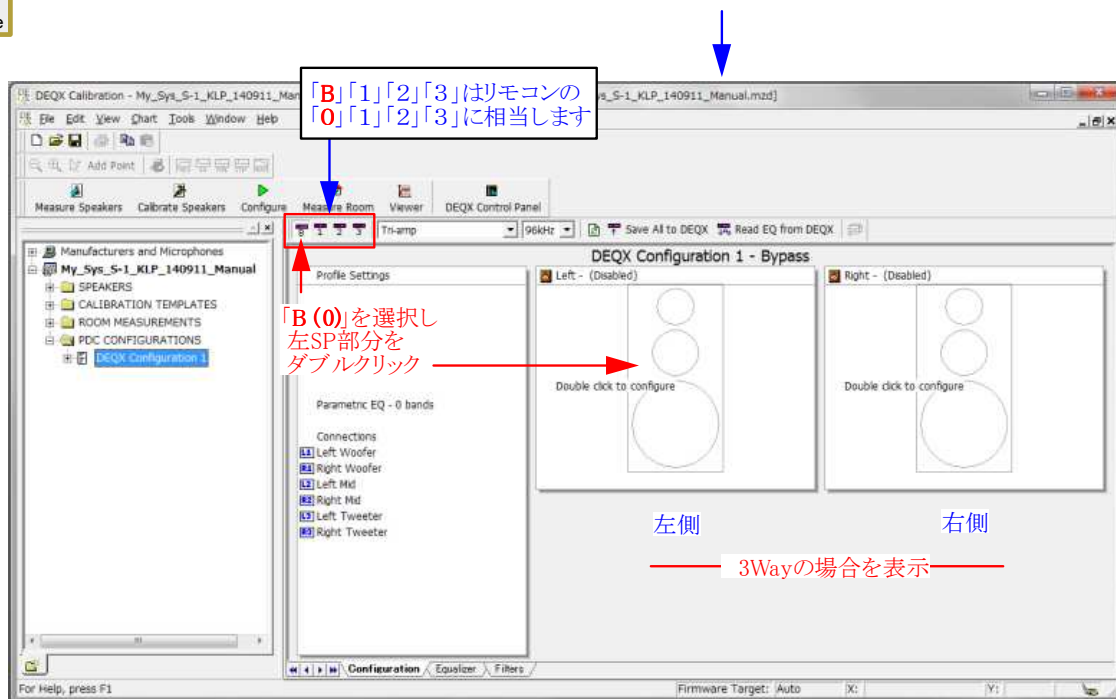


- ① Profile-1を選択し、Lch側SP画面で右クリックサブメニューから「Copy」を選択
  - ② Profile-2を選択し、Lch側SP画面で右クリックサブメニューから「Paste」を選択
  - ③ Profile-3を選択し、Lch側SP画面で右クリックサブメニューから「Paste」を選択
- ※ Rch側も全く同様にProfile-1のデータをコピーして、Profile-2と3にペーストする



<補正データをProfile-1~3に設定し終えた時の画面>

- Profile-1~3に設定したデータを確認します
- 4個のProfileは自由に設定出来ます。標準的(Kurizz-Labo方式)な設定は、
  - Profile-0 (B) ----- Bypass (バイパス:chデバイダーのみ使用)
  - Profile-1 (1) ----- 標準/最適設定(ほとんどのプログラムに最適)
  - Profile-2 (2) ----- クラシック用(ホールの音響特性を再現)
  - Profile-3 (3) ----- ジャズ用(古き良き時代の録音特性を再現)
- 上記の特徴的なProfile設定はRoom補正時のマニュアルEQで行います

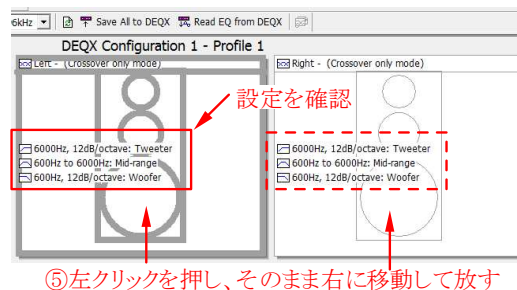
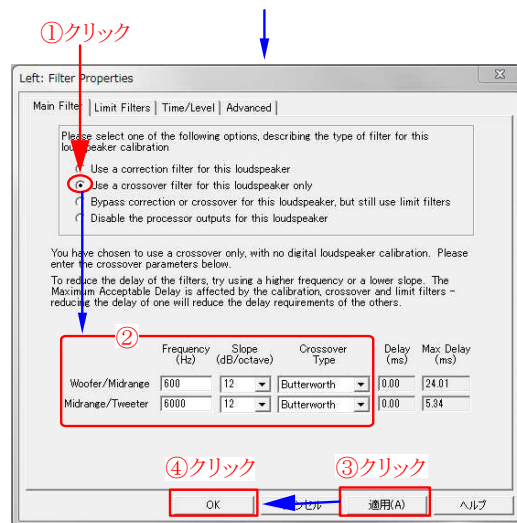


＜補正データの設定を完了し、次にProfile-0(Bypass)を設定する画面＞

■ Profileの「B」(0)はBypassの意味を持ちますが、実際にはProfile1～3と同様に設定できます。通常はDEQXによる音質の改善効果を耳で確認して頂くため、DEQXによる補正は行わずに、LCネットワーク相当のデバイダー特性のみをセットしています。

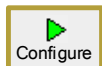
■ ここではその方法を説明します。

- ① 選択枝の2番目にある、「Use a crossover filter for this loudspeaker only」を選択します。
- ② 設定用のウィンドウに必要な数値を入力します。
  - ◆ この時、周波数は任意に設定できますが、遮断特性(スロープ:Slope)はフィルターのタイプによって設定範囲が異なります。
  - ◆ LCネットワーク相当の6～18dB/oct.に設定する場合はLinear Phase以外を選びます。通常はButterworthを選択して下さい。
  - ◆ 図では、600Hz=12dB/oct.と、6kHz=12dB/oct.に設定した場合を示しています。
  - ◆ 設定が完了したら③→④をクリックします。
  - ◆ 元の画面の左側スピーカーに設定値が表示されますので、これを右側にコピーします。
- ⑤ 左右が同じデータの場合は図に示した方法が便利です。

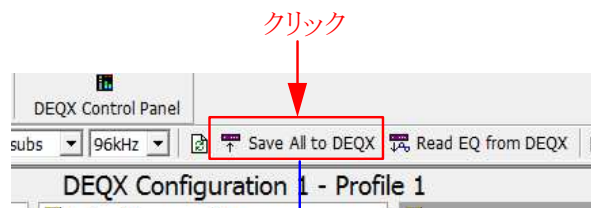
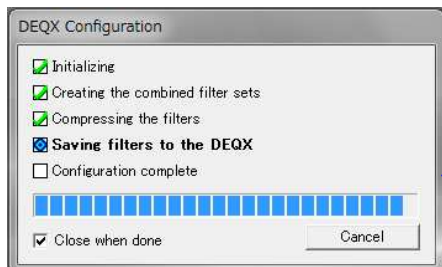


⑤左クリックを押し、そのまま右に移動して放す

■ パソコン側の設定が完了

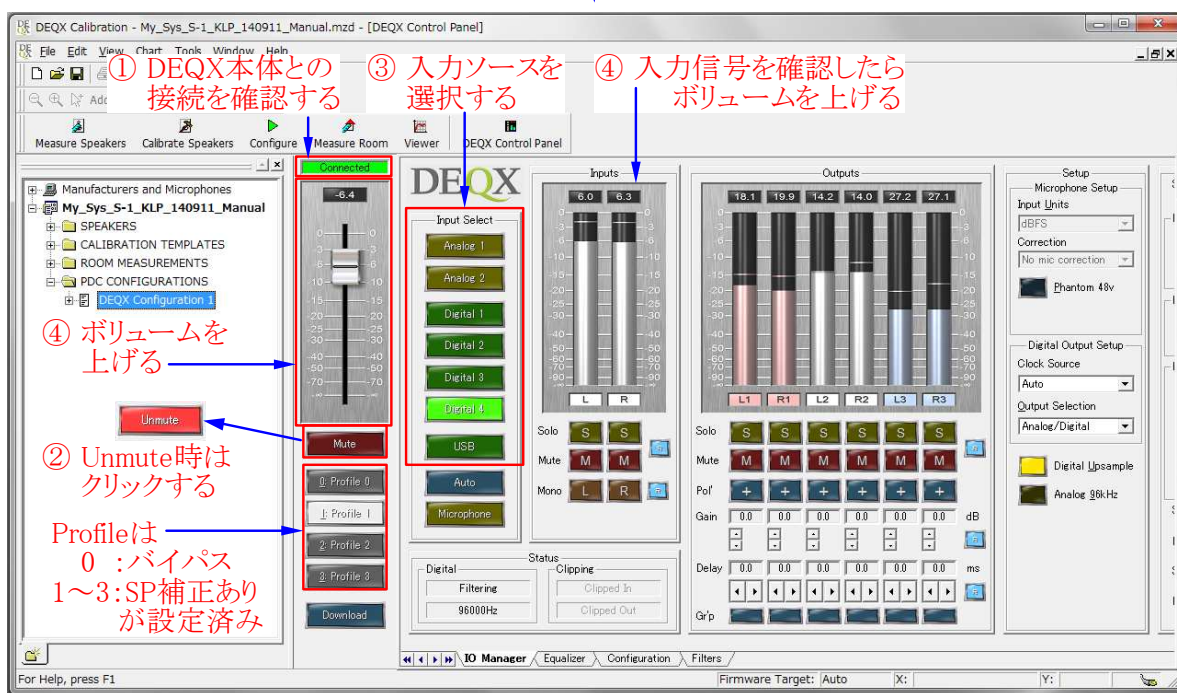


DEQXにデータを転送中の画面



- DEQXを設定する上で重要な項目: Save All to DEQX
- ◆ パソコンで設定したデータをUSB経由でDEQXに転送する
  - ・データの転送時にエラーが出た場合は注意が必要である
  - ※ 設定したデータに異常があると転送時にエラーとなる
  - ※ エラーとなったデータは消去して新たに設定を行う
- DEQXからデータ(EQ設定)を読み込む場合は右側の「Read EQ from DEQX」を使う

■ DEQX側の設定も完了



■ SP補正が完了してDEQXから音が出せる状態となった(Room補正はまだ)